



住計画FURUTA

www.jukeikaku.com/

[帯広] (株)住計画FURUTA
〒080-2469 帯広市西19条南2丁目25番4号
TEL 0155-35-5181 FAX 0155-36-8655

 **0120-141-365**

[札幌] (有)住計画FURUTA
〒065-0030 札幌市東区北30条東1丁目4-14
TEL 011-753-7258 FAX 011-753-7259

 **0120-910-098**

北楽倶楽部別冊



北楽工舎の家

KITARA KOSYA



住計画FURUTA



project
北楽工舎の始まり。



1999年、(株)住計画FURUTA(当時古田建設株式会社)は、低コスト住宅の提供と共に、地元十勝に根ざした提案型住宅に取り組みました。地域材カラマツ(北海道・十勝)を建築材とした「地産地消」の家づくりです。そこで同じ志を持つ社員と共に、北の暮らし提案プロジェクト「北楽工舎」を立ち上げたのです。現在、プロジェクトも帯広・札幌で実績を重ね、2010年には、MISAWA・international(東京)と提携した「HABITA北楽工舎」が始まりました。

街の田園生活

たどる暮らしのありよう



2009年 全13区画



2011年 全32区画



家と庭が一体となって、始めて「家庭」という安らぎが形づくられます。その理想的な暮らしに近づく第一歩が、ゆったりとした敷地の確保から始まります。当社が、「街の田園生活」をコンセプトに利便性の高い帯広市南町に宅地開発したのが「ガーデンタウン・つくし野」です。現在、着々と理想の街づくりが進んでいます。

帯広市



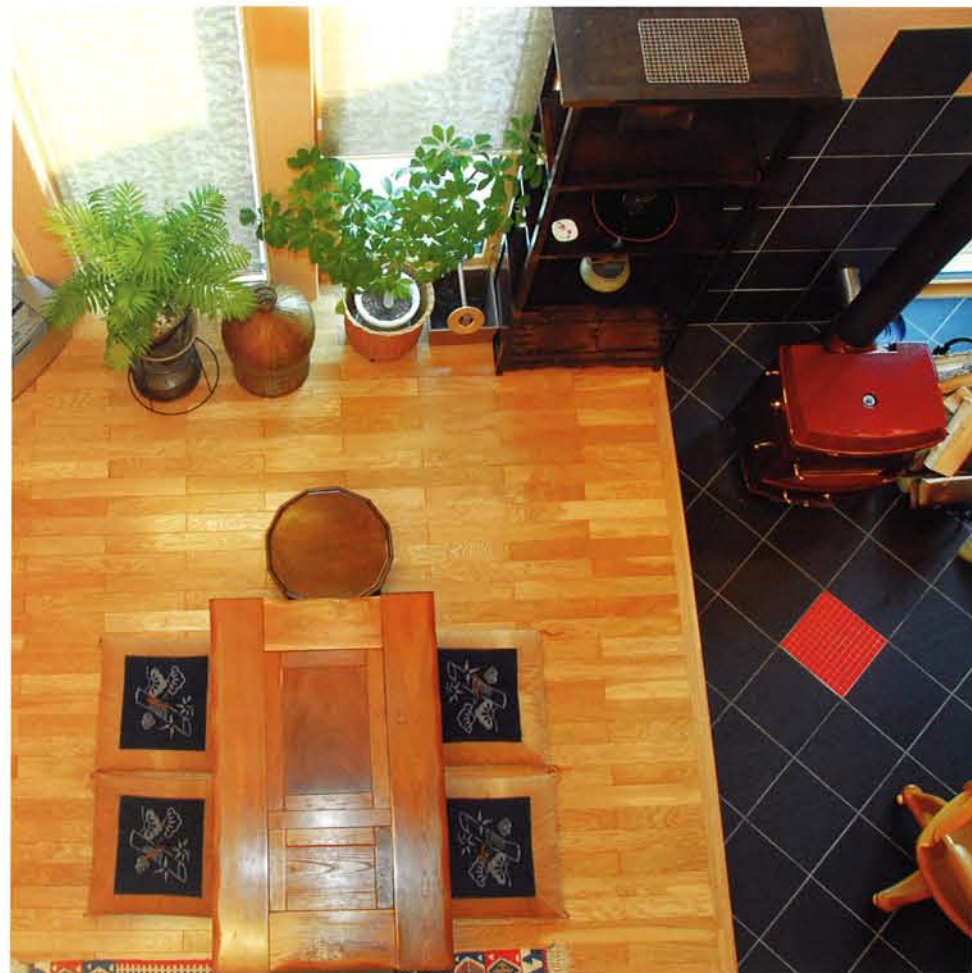
スロウな家庭菜園の家。

花と野菜畑のある暮らし。「ガーデンタウン・つくし野」のコンセプトを十分に取り入れ、具体化したモデルの住宅です。

130坪の敷地に建てた二世帯住宅。コンパクトな設計ながら、二世帯それぞれが、二人ずつ生活するには十分な作りです。適度な距離を保った生活空間は、お互いのプライバシーを守りながらも、日常的な交流に支障はありません。

床暖の土間には重量感のある木製のオリジナルキッチンと薪ストーブを設置。冬期間でも、日中は薪ストーブを焚かなくても十分な温かさです。

また配置の工夫により、南面に家庭菜園のためのスペースが希望通りに確保できました。



札幌市



次代へつなぐ、木守りの家。

札幌「ウエルピアひかりの」に建築された「木守りの家」モデルハウスは、2010年度、国土交通省の「地域木造住宅市場活性化推進事業」に採択されました。

18.8帖の広い土間は、床暖仕様。かつて日本の住まいに多く見られた土間を、今のライフスタイルに合わせ、見事に蘇らせました。広い土間の活用は、住むご家族のアイデア次第で多才に広がります。一階の高い天井を見上げれば、見事なむき出しの梁。キッチンオリジナルで造られたタモ材使用のアイランドキッチンで、使い込む程に愛着がわいてきます。また1階には8帖の和室、2階には子供部屋と主寝室を設けています。



札幌市



いつも自然を感じる家。

「自然が大好きなので、家の中でも自然の気配を感じる家にしたかった。何年たっても飽きのこない家が理想だったので、長く使うほど味わいが増す自然素材は好みにぴったりでした。」と語るのは、札幌市に住む、お若いご夫婦とお子様との三人家族+2。

道産材を中心とした自然素材へのこだわりと、予算内で希望に応える提案が決め手。素朴な質感の塗り壁は、空気の浄化作用が高く体にやさしい十勝産の火山灰「エゾシラス」を使用。ペットの臭いは勿論、焼き肉をした翌日も臭いが残らず快適ですと、とても満足していただけました。

開放感あふれる吹き抜けのリビングは、南面の大きな窓から光がそそぐ明るい空間。天然木の風合いを活かしたシンプルな空間に若い夫婦らしいインテリアがセンスよく調和しています。



200年住宅

帯広市

HABITA KITARA 北楽工舎

(株)住計画FURUTA(代表 古田剛好)は、1999年より地域材「カラマツ」に着目し多くの住宅を建築してきましたが、今後更に地域の資材・地域の技術・地域の知恵を住宅建築に生かす為MISAWA・international「HABITA」(本社東京)と2010年3月に提携契約を結び、同年9月からモデルハウスの建築に着手、約半年間をかけて帯広市の「ガーデンタウン・つくし野」に完成しました。

もうひとつの北楽工舎、住計画FURUTAは「HABITA北楽工舎」として十勝のHABITAブランド構築を目指します。



HABITA 土・間・戸
DO MA DO



大空と大地の家。

モデルハウス外観は、爽やかなブルーの2階部分と大和張りのカラマツ材で仕上げた1階部分で二分し、それぞれ大空と大地を表現しています。ドアを開けると、そこには圧巻の五寸角通し柱に支えられ、存在感を主張する土間リビング。しかしその男性的な力強さの半面、何故かまるで母親に包みこまれたような安心感があるから不思議です。それは、古民家の中に入った時の懐かしさのようなものかも知れないし、また自然の素材と薪ストーブの炎がもたらす癒しの効果なのかも知れません。

そんな温もりの家「HABITA土・間・戸」には、実はリビングの中央の屋根を取り除くという大胆な仕掛けがあるのです。

見上げればいつも「空」。暮らしの中の驚きと感動は、私たちもまた自然界の一部であることを教えてくれるはずです。



北海道の住宅は、気候条件も住まいの歴史も本州とは大きく異なり、寒冷地独自の研究と工夫がなされてきました。

高断熱・高气密住宅は当たり前になっている現在、今やこの高い技術はむしろ冬場のオーバーヒートを起こしかねないところまで来ています。言わば人工環境が行き過ぎ始めてきているのです。今、北海道の住宅にも開放感が必要と考えます。その結果、たどり着いたのが、広い空間を活かした「土間と中庭の家」です。リビングから見上げる大空、この自然への開放感は何にもにも代え難いのです。また大空と大地の間に育まれた樹木を大切に作る気持ちから、道産カラマツ材を100%使い、それらは柱や梁として新しい生を受け住まいは第二の森として蘇るのです。

これからの北海道の家。今、新しいスタンダードが動き始めました。



モデルハウス面積表

敷地面積	390.00m ² (118.00坪)	車庫	24.84m ² (7.50坪)
建築面積	109.30m ² (33.00坪)	ポーチ・裏口	9.93m ² (3.00坪)
1階床面積	77.01m ² (23.25坪)	中庭	13.25m ² (4.00坪)
2階床面積	56.31m ² (17.00坪)	吹き抜け	13.25m ² (4.00坪)
延床面積	133.32m ² (40.25坪)	施工面積	194.59m ² (58.74坪)

音更町



地産地消、安ら木の家。

家づくりの原点を見つめて作った、木構造「現し」の家。十勝産カラマツ材をふんだんに使い、懐かしさが漂う古民家風の仕上げです。玄関ドアを開けると開放的な土間が広がり、陶芸、ガーデニングなど、趣味のスペースとしても十分な広さを確保しました。また壁材は、エゾシラス（火山灰とパルプ）を使用していますので、カラマツとのマッチングも良く仕上がっています。

